

# さくらエコーナビ通信

第21号発行  
平成28年3月25日  
早良区生活環境課  
TEL:833-4341  
協力  
早良区環境活動  
連絡会議

## 環境活動 ぼくたちゴミ・パトロール隊

大原小学校4年1組の野田君・立石君は、入学してからずっと、登下校のときお菓子の空き箱やレジ袋、煙草の吸い殻等が落ちていて汚いなあと感じていました。

平成27年度に小学4年生になった2人は、5月に環境学習で「ごみとわたしたち」を学び環境への関心が高まりました。そこで、2人で学校の周りを綺麗に掃除しようと話し合いました。早速、大原公民館に『放課後、僕たちで清掃するので、公民館を集合場所にしていいですか。また、ゴミ袋の処理を公民館にお願いしていいですか?』とお願いに行きました。

この申し出を受けた公民館長の了承が得られたので、2人は大原小学校の校長先生、教頭先生や担任の先生と打ち合わせをしました。その結果、子どもみずからのアイデアで、率先してボランティア清掃を実施しようという自主性が尊重さ

れ、「学校と公民館で協力します。」ということになりました。

早速、ボランティア団体の名前を「ぼくたちゴミ・パトロール隊」と命名し、クラスの仲間や同級生に参加を呼びかけ、ポスターを作って公民館等に張り会員の募集をしました。

7月2日(木)から、清掃を始め、最初は8名の参加がありました。清掃箇所は大原校区の全域を考えましたが、校区内を県道内野次郎丸弥生線が縦断していて危険なため、県道の西側地区を数カ所に分けて実施することになりました。しかし、月1回では全域を清掃しきれず、ごみが散らかってしまおうと考え、10月からは月2回に増やし、毎月第1・第3木曜日の放課後、実施することを会



パトロール隊員募集ポスター



道路のすみずみまで…

員で話し合っ決めてました。大原小学校では清掃参加者にポイント・カード式の『大原チョコボラ会員証』(ちよこっと・ボランティア)を作成し配布すると共に、参加回数に応じた記念品の配布を考えているそうです。

そして、大原公民館では、毎回、清掃に必要な火ばさみや軍手等の貸し出し、ゴミ袋の配布、さらに交通事故防止や防犯対策として、公民館長が子ども達に同行していらっやいます。

会員数も段々増え、清掃参加者も、今年2月には18名、3月には34名まで増えてきています。参加した会員に感想を聞くと、楽しかったという声がたくさん返ってきました。

2人の今後の目標は、会員数を100名に増やしたいということ、上級生や下級生へ参加の呼びかけをするため、新しいポスターを考案中のことです。

## 環境講座 「省エネ・節電!」

飯原校区自治協議会環境推進委員会

平成28年2月12日(金)飯原公民館講堂において、飯原公民館、飯原校区自治協議会環境推進委員会共催の環境問題学習講座が行われました。テーマは「省エネ・節電!」上手な電気の使い方とLED電球の選び方」です。講師に大手家電メーカー消費生活アドバイザーの亀田雄二氏を招いて実施されました。

まず、初めに飯原校区自治協議会環境推進委員会会長の木村俊彦氏より、身近な節電やLEDのことについて触られました。

そして、講座は「あなたの省エネ・節電行動チェック」よりスタートしました。項目は20ほどあり、例えば冷蔵庫の上には直接モノを置いてないこと、炊飯器や電気ポットの長時間保温は避けていることなど多岐にわたっていました。参加者の中には項目が18も該当している方もいらっしゃり、飯原校区の省エネ・節電の意識の高さが垣間見えました。

続いて、即効/電気代を下げられるかもしれない「技」を伝授していただきました。その「技」とは契約容量(アンペア数)を変更するということです。こんな簡単な方法で電気代を下げられるとは驚きでした。

次に、製品別の節電方法です。

まずは、家の中で電気を多く使っている冷蔵庫の節電方法です。ドアの開閉は少なく短く・熱の移動を少なくするという事です。例えば、開放時間を20秒だったところを10秒に短縮する。そうすることで年間約150円の節約になるそうです。その他にも冷蔵庫内の温度が上がらないように、熱いものは冷ましてから入れることや冷蔵庫には物を詰込みすぎない、逆に冷凍庫には物をギッシリ入れていた方が良いなど、電気代の節約に欠かせない金言がどんどん出てきて、目から鱗でした。

冷蔵庫の後は、LED電球のお話です。LED電球は従来の電球と違い消費電力が少ないことや寿命が長いという利点が紹介され、買い替えのタイミングで導入することをお勧め



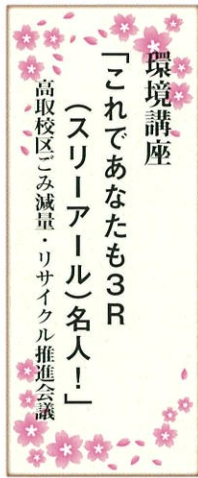
あなたの省エネ・節電行動チェック

めされました。

続いてエアコンの節電方法です。冬の寒い部屋を暖かくするには、加湿器や扇風機を利用すること、夏の暑い部屋を涼しくするには、除湿器や扇風機を利用すれば良いことを教えていただきました。

最後にまとめとして、使っていない時は電源をきる。熱の放出や吸収を効率良くする。熱の移動を考える。設定を変えて節電する。ということをお話していただきました。

参加者は今日から節電を実践して、寒い冬を乗り切り、暑い夏に備えようと意気込まれています。



平成27年12月15日(火) 高取公民館講堂において、高取校区ごみ減量・リサイクル推進会議主催の講座が行われました。テーマは「これであなたも3R名人」(参加型ステップアップバージョン)。講師に福岡市環境局資源循環推進課 廃棄物分別排出適正化相談員の小嶋悦子氏を招いて実施されました。

まず、冒頭で高取校区ごみ減量・リサイクル推進会議会長の安村芳久氏より、10月30日に新門司工場への

施設見学の際に学んだ、「混ぜればごみ、分ければ資源」という言葉で、3Rの大切さ、分別の大切さをこの講演会で再認識してほしいというお言葉がありました。

講演会は、講師の小嶋氏の卓越した話術と人を引き付ける力で大盛り上がり。総勢40名程の参加者が6つの班に分かれ、最初にごみを減らす方法をみんなで出し合いました。3人寄れば文殊の知恵とはよく言ったもので、6人で話し合ったら、たくさんさんの意見が出揃いました。その意見を、小嶋氏はリデュース・リユース・リサイクルの3つに振り分けられました。例えば、過剰包装の物は断る、無駄な物は買わないはリデュース。詰め替え用商品を購入するのはリユース。紙や段ボールを集団回収に出すはリサイクル。そして、この3Rに優先順位をつけて、意識の変革を求めました。一番は、ごみを発生させないリデュースを実践していこうと。

次に、ごみの分別クイズを行いました。自信のある方や、うろ覚えの方などおられました。みなで分別方法を話し合いごみを分別しました。燃えるごみ、燃えないごみ、びん・ペットボトル、粗大ごみ、その他で分別し、間違いやすい分別方法を細かく丁寧に教えていただきました。黄色の袋のびん・ペットボトルは40%しかきちんと分別されていない



3Rを学ぶ環境講座

事実一同衝撃を受けました。福岡市が回収したペットボトルは公益財団法人 日本容器包装リサイクル協会の検査で最低のDランク判定が続いています。ペットボトルを出す際には、ラベル・キャップを外し、容器の中をすすいで出しましょう。

最後に、燃えるごみの中に入っているリサイクルできる紙が、平成26年度は17.5%、約4万7千トンもあることに触れ、紙袋に雑紙を集めてリサイクルできるというワンポイントアドバイスで会は閉会しました。参加者は、とてもためになる講演会だった。今日から実践してみようと言われていました。

今後福岡市は出前講座の依頼をお待ちしております。3Rを実践して、育てよう。みんなの未来!